

外国人観光客レンタカー利用の促進

2010SE034 後藤寛登

指導教員：腰塚武志

1 はじめに

1.1 研究の背景

近年訪日外国人が1000万人を超え、海外からの観光先として、日本への注目が高まっている。ビジットジャパンキャンペーンの促進、中国や東南アジア諸国連合（ASEAN）向けの観光ビザの発給要件の緩和、出入国管理体制の強化、また格安航空会社の利用の容易化などが、訪日外国人客増加の背景として考えられる。

過去11年の外国人観光客の推移を見ると、新型インフルエンザが流行した2009年、東日本大震災の2011年を除き、毎年増加しており、2014年には1300万人を超えた。そして、2020年度にオリンピックが開催されることが決定している。過去のオリンピック開催国での観光客数の変化から考慮し、外国人観光客の更なる増加が考えられる。訪日外国人の増加がオリンピックの期間内だけに留まらず、継続したものとなること、経済効果を一定の市町村だけに偏らせないことを目的とし、新たな観光手段の提案をするため、本研究に着手した。

1.2 外国人観光客の現状

現状では訪日外国人には、人気都市だけを訪れるゴールデンルートが多く利用されている。近年では、地方自治体も観光誘致に力を入れており、例として松前や高山では、多くの外国人の獲得に成功している。その多くの人気都市については、公共交通機関が充実しているという特長がある。本研究では、公共交通機関が発達していない場所により観光客を呼び込むため、レンタカーを使った観光方法を提案したい。特に公共交通機関が整っておらず、レンタカー利用の意義が高い北海道を対象として取り組む。観光客はリピーターになればなるほど、ゴールデンルートだけでなく、他の観光エリアへの観光欲求が高まることがわかっている。このことから、レンタカー利用を促進することで、多くの観光エリアに外国人観光客を呼び込めば、更にリピーターの獲得につながることを期待できる。

2 国別レンタカー利用の現状

平成21年度訪日外国人の国別の北海道への観光者数(図1)、また平成21年の全体に占めるレンタカー利用の割合を図2に示す。これをこれを見ると、香港人のレンタカー利用台数が他国のそれより多い事がわかる。理由として、香港では日本と同じく右ハンドル左側通行であることから、運転がしやすいことがあげられる。ハンドル誤操作による事故が起きる不安が小さく、旅行代理店がレンタカー利用をプランに取り組みやすい事が理由の一つだ。

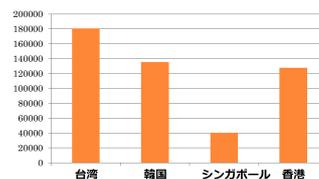


図1 平成21年度来道者数(人)

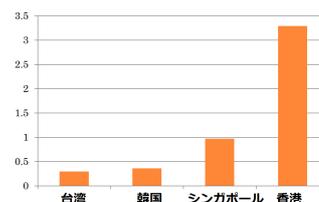


図2 レンタカー利用の割合(%)

3 香港人、日本人が多く訪れている市町村

レンタカー利用の少ない外国人に比べ、レンタカー利用の多い香港人、または日本人が際立って多く訪れている市町村を明らかにする。それらの市町村をレンタカーで訪れる価値のある市町村として注目する。まず、外国人の各市町村での宿泊者数が合計宿泊者数に対して占める割合を算出する。それに比べ、香港人、日本人の同様の値が1.2倍以上になる市町村に注目をする。市町村によって、外国人観光客に対し香港人だけが多いところ、日本人だけが多いところ、香港と日本人が共通して多いところがあるが、全てをまとめて、地図上に表す。



図3 注目市町村1

4 ツアー客とレンタカー客の主な行き先市町村

レンタカーではよく訪れられているが、ツアーでは訪れられていない市町村を明らかにする。ここでは、ツアーで訪れられている市町村を判別する為、日本の旅行会社で北海道旅行を海外に進めている団体の推奨しているツアー11個に注目する。それら行き先市町村の全て調べる。また、

レンタカーで訪れられている市町村を判別する為、北海道開発局が推奨する11のレンタカーモデルルートに注目する。それらのルートの行き先市町村の全て調べる。これら二つの地図を比べ、レンタカーでは訪れるが、ツアーでは訪れない市町村にマークをし、注目市町村とする。それを示したのが図4である。

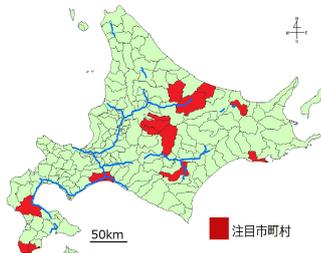


図4 注目市町村2

5 宿泊者数数が少ないが入り込み総数が多い市町村

宿泊者数数が少ないが入り込み総数が多い市町村を明らかにする。現状、ツアーでは宿泊エリアとして人気の高い市町村を観光する傾向があり、レンタカーでは宿泊エリアとして人気のない市長村にも、訪れる傾向がある。先ほど取り上げた全ツアーの行き先のうち、宿泊者数ランキングが25位以内の割合は76%であるが、全レンタカー行き先のうち、宿泊者数ランキングが25位以内の市町村は54%である。そこで、宿泊者数が少ないが、入り込み総数が多い市町村を明らかにすると、すでにレンタカーで人気の高いエリアとして先ほど注目した市町村に加えて、先ほどは選出されなかった市町村にも焦点が当たる可能性があると考えた。選出手段として、日本人を含む全世界からの各市町村別、宿泊者数と入り込み総数を扱う。まず、各市町村の宿泊者数の、北海道全宿泊者数に対する割合を計算する。それに比べ、各市町村入り込み総数の、北海道全入り込み総数に対する割合が1.2倍以上になる市町村を図5にマークした。

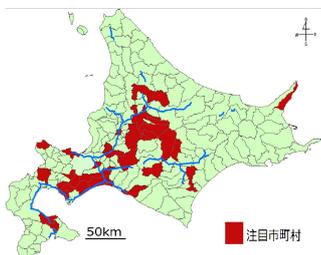


図5 注目市町村3

6 レンタカーで行く意義のある市町村

ここまで、レンタカー利用の多い香港人もしくは日本人が偏って多く訪れる市町村、レンタカールートでは訪れるが、ツアールートでは訪れない市町村、宿泊者数は少ない

が、入り込み総数が偏って大きい市町村、と独自の3つの観点から各市町村に注目をしてきた。ここで、それらの市町村を一つの地図にまとめ、そこから11のツアーで訪れている市町村を外して表示する。

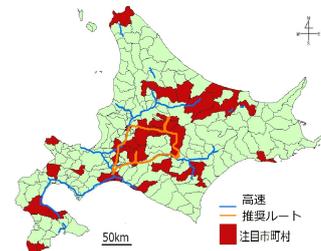


図6 レンタカーで訪るべき市町村

7 推奨ルート

注目した市町村の中から、長沼町、岩見沢市、夕張市、砂川町、芦別市、上富良野、美瑛町、東川町、新得町を選択すると、3泊4日ですべての市町村を観光することが出来る。尚、推奨ルートを図6に示した。3泊4日の北海道旅行は外国人観光客に人気が高い。ツアーでの3泊4日の観光と比較する。ツアーでは4万円前後のプランが平均的であるが、レンタカーで旅行する場合4人での旅行を例に考えると同じ条件で2万円前後で観光できる。

8 おわりに

現状では、北海道での外国人観光客の多くがツアーを利用しており、偏った市町村だけに観光客数が集中していた。香港人観光客は比較的多くレンタカー利用しているが、人気のある市町村に人が多く集まる傾向があった。そこで、香港人や日本人の多くが訪れているが外国人観光客には注目されていない市町村、ツアーでは訪れないがレンタカー推奨ルートでは取り上げられている市町村、宿泊先として人気がないが多くの観光客が訪れている市町村に注目し地図上に表した。すると、いままでは外国人に注目されていなかった市町村に、焦点当てることができた。それらの市町村を調べてみると、魅力的な観光資源を有しているが、外国人観光客数が少ないことが分かった。データや数値によって導き出した訪れるべき市町村として、情報発信をすると、外国人観光客も受け入れ易いと考えられる。これらの市町村への誘致を成功させることで、経済効果の分散やリピーター獲得にも良い影響を及ぼすことが出来るだろう。

参考文献

- [1] 川岸 卓司 (2013) 「北海道における訪日外国人の訪問地多様性の測定」
- [2] 北海道経済部観光局連携推進グループ 「北海道ドライブまるわかりハンドブック」
<http://www.hkd.mlit.go.jp/topics/toukei/chousa/h20keikaku/handbook.html>